

砂防工事の安全対策と住民・環境に対する配慮について

発注者 新庄河川事務所
施工者 升川建設株式会社
工事名 寒河江川流域見附砂防えん堤改築工事
発表者 現場代理人 松田 隆志
○ 監理技術者 菅野 真二

1、はじめに

本工事は、最上川水系砂防事業の一環として、寒河江川流域見附川において上流域からの流出土砂の調節を目的とし、既設砂防えん堤の改築(スリット)を行う工事である。

施工箇所は、大井沢見附地区より約3kmほど林道を山の中に入った所にあり、山菜採りや遊漁者が入山してくる所である。このような条件の中で現場で実施した安全対策と住民や環境に対する配慮について報告します。

2、工事概要

工事名	寒河江川流域見附砂防えん堤改築工事	
工事場所	山形県西村山郡西川町大字大井沢字見附地内	
工 期	平成21年7月3日～平成22年12月17日	
工事内容	砂防堰堤	
	構造物撤去工	1式
	法面工	1式
	仮設工	1式



着工前



完 成

3、安全対策

1) 水位フロート警報装置の設置と避難訓練の実施

当現場上流の流域面積は 30.3km^2 と非常に大きいため、降雨のたびに堆砂敷の水位が上昇し水通しの上を越流してしまい作業が不可能となる。よって急激な水位上昇時にも対応できる様水位計(フロート式)を設置し、常時水位を監視し設定した水位になれば、サイレンが鳴る様にした。

また、いざという時に避難できる様、水位の上昇を想定しての避難訓練を実施した。



警報装置設置状況



水位計(フロート式)設置状況



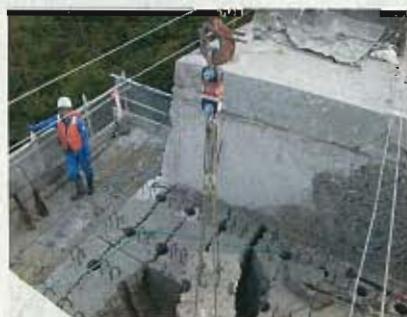
避難訓練実施状況

2) ブロック撤去時の荷重計使用

スリット工事において、ブロックを撤去する際、ケーブルクレーンを使用して作業するため、クレーン自体に荷重の目安となる荷重計がついていない。よってどれくらいの荷重が掛かっているか調べる方法としてケーブルクレーンのフックに荷重計を付け、吊上げ作業時常時確認できる様、配慮した。



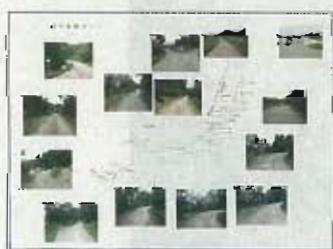
荷重計



荷重計使用によるブロック撤去状況

3) 林道の運行経路マップの活用

現場事務所から施工箇所までの距離は約3km離れているため、作業員及び資材搬入業者に運行経路マップにて説明を行い、通行に際しての注意点を教育した。



運行経路マップ



路肩危険箇所防護柵



現場までの距離表示



待避所の明示

4. 住民に対する配慮

1) 遊漁者への周知看板の設置

見附川下流の寒河江川は、釣り人が多くやつてくるところで、キャッチアンドリリース区域に指定されている。

スリット工事を施工するにあたり、一時的に河川が濁る恐れがある為、漁協と打合せをし、釣り人の目に付き易い場所(10箇所)を選定し看板を設置し、遊漁者に理解を求めた。



お願い看板設置状況(全景)



お願い看板設置状況(近景)

2) お知らせ箱の設置

林道入口にある公衆トイレ内にお知らせ箱を設置し、山菜採りの入山者に対し工事現場の内容を記した工事だよりを入れ、通行時の協力も含め、自由に情報を入手できる様にした。



お知らせ箱設置状況



お知らせ箱設置状況(近景)



お知らせ資料

3) 大井沢地区 雪まつりへの参加

地域への貢献の一環として、大井沢地区の雪まつりの開催に伴い工事紹介のパネルを展示し工事への理解を深めていただいた。

見附川防災堤改築工事の工事紹介



パネル展示状況



見附川防災堤改築工事

4) 工事だよりの配布

地域住民とのコミュニケーションの一環として、工事に対する理解及び進捗状況をお知らせする為に工事だよりを作成し、大井沢地区の各家庭に配布した。



工事だより配布状況



工事だより 1~5号

5. 環境への配慮

当現場では、貴重な動植物等への配慮が必要であることから、次の事項に留意して現場を進めた。

1) 騒音・振動の抑制、遮蔽の配慮

作業員の服装は目立たない紺の作業服を着用し、工作物も目立たないように、出来るだけ木陰に設置するようにした。



2) 生息環境の保全に関する配慮

工事従事者に対し新規入場者教育時に工事用作業通路だけを使用するよう指導し、その区域を外れての山菜採りや、釣りの禁止を教育した。また、事務所や仮置場は施工場所から2.5~3.0km離れた部落に設置し、可能な限り区域内に施工設備、仮置場等を設置しないように配慮した。



入山時の遵守事項看板の設置



入山時の遵守事項(近景)



現場と事務所の位置関係図

6. おわりに

この工事は、約1年6ヵ月と長い工期でありましたが、無事故・無災害で工事を完成させる事が出来ました。これも、地域の皆様のご理解とご協力、そして発注者の方々のご指導のおかげであると心から感謝しております。今後も今回以上に安全管理はもちろん、自然環境に配慮して、地域とのコミュニケーションを大切にし、工事を進めていきたいと思います。